

栃木県

さくら市 龍光寺(さくら市) 喜連川観光協会(さくら市)



さくら市は平成17年3月28日に塩谷郡氏家町と喜連川町が合併してできた市です。

栃木県の中央部のやや北東にあり、県都宇都宮市に隣接、また東京から直線距離で120kmのところにあります。

当市は、日本三大美肌の湯・喜連川温泉や、足利氏の紋をつけた陣笠をかぶるコンタ君がキャラクターの道の駅きつれがわ、観光りんご園、ゴルフ場等の多数の観光施設もあります。自然豊かで多くの河川と肥沃な大地から県内有数の穀倉地帯でもありながら、交通の要衝地として便が良く商業の発展もしています。

さくら市は足利氏との縁が深い土地です。戦国末期、足利尊氏の流れをくむ、古河公方と小弓公方の婚姻とさくら市喜連川の移住によって誕生したのが、喜連川足利氏でした。

江戸時代を通して治めた跡を、現在も城下町の風情や文化財などで見ることが出来ます。



喜連川藩主足利家歴代の墓所

歴代藩主の菩提寺の一つ龍光寺には、土塁に囲まれた中に歴代將軍の供養塔や藩主墓碑、石塔60基が並ぶ歴代墓所や長寿寺(鎌倉)の像を模刻した足利尊氏像があります。また喜連川足利氏の命により整えられ、散策にも使われる御用堀、寒竹囲い生け垣なども見ることが出来ます。更により深く喜連川足利氏の歴史を学べるさくら市ミュージアム「荒井寛方記念館」もあります。

栃木県

野木町



栃木県の最南端に位置する野木町は、栃木県の南の玄関口として、JR宇都宮線や国道4号線により、首都東京へ約60km、宇都宮へ約40kmで結ばれた首都圏に位置します。地形は平坦で、気候は温暖、地味も肥沃と、気候風土ともに恵まれ、米・麦・果樹・施設園芸などの農業が盛んです。一方、交通の便利さから、ベッドタウン的色彩がみられます。

西光山乾亨院満福寺は、明応年間(1492~1500年)に開かれた曹洞宗の禅寺で、古河公方足利成氏が建てたといわれています。

寺には、足利尊氏の子孫である足利成氏の墓や、応仁の乱後の京都で活躍した連歌師で、足利政氏に連歌を指導したといわれている猪苗代兼載の墓があります。



古河公方足利成氏の墓(満福寺)